

第7章 目標値の設定と施策の達成状況に関する評価方法

7-1 目標値と効果

目標値については、本計画の具現化を図るため、定量化された指標を用いて実施される施策の効果をも市民の方々が客観的に把握できるよう定量的なものを次のように定めます。

なお、指標については、計画の進捗管理が明確かつ明瞭に把握できるよう、誘導方針と整合が図られた値とします。

誘導方針①の目標値とその効果

若い世代の転出者数を抑制し、U・Iターン者などの若い世代の人口が増加する施策を展開

目標値	【評価指標】若い世代（15-39歳）の人口割合を改善
	2040年の予測約40.1千人（17%） → <u>約47.4千人（20%）に改善</u>
▼	
目標の達成により期待される効果	若い世代の定住者数が増加することで、将来のいわき市を担う新たな人材が確保されます。

誘導方針②の目標値とその効果

過度に自家用車等に頼らなくても日常生活や産業活動が展開しやすい圏域の増加を図る施策を展開

目標値	【評価指標】まちなか居住区域内（都心拠点等）の人口密度の維持
	約46人/ha（2010年） → <u>約46人/ha（2040年）</u>
	【評価指標】公共交通利用者数（鉄道・バス）の維持
	（鉄道） 約5.7百万人/年（2017年度） → <u>約5.7百万人/年（2040年）</u> （バス） 約3.9百万人/年（2017年度） → <u>約3.9百万人/年（2040年）</u>
▼	
目標の達成により期待される効果	- 人口密度が維持されない場合と比較して、人口密度が維持されることで、非効率な都市活動が抑制され、生活サービス施設の不合理な撤退が抑制されます。 - 過度な自家用車分担率が低減されるとともに、自家用車の保有台数が低減され、自家用車の保有による年間経費分を他の投資に振り替えることが可能となり、市内の経済が活性化します。

誘導方針③の目標値とその効果

若い世代が働きやすい環境を整備し、市内産業を支える労働力の確保等を図る施策を展開

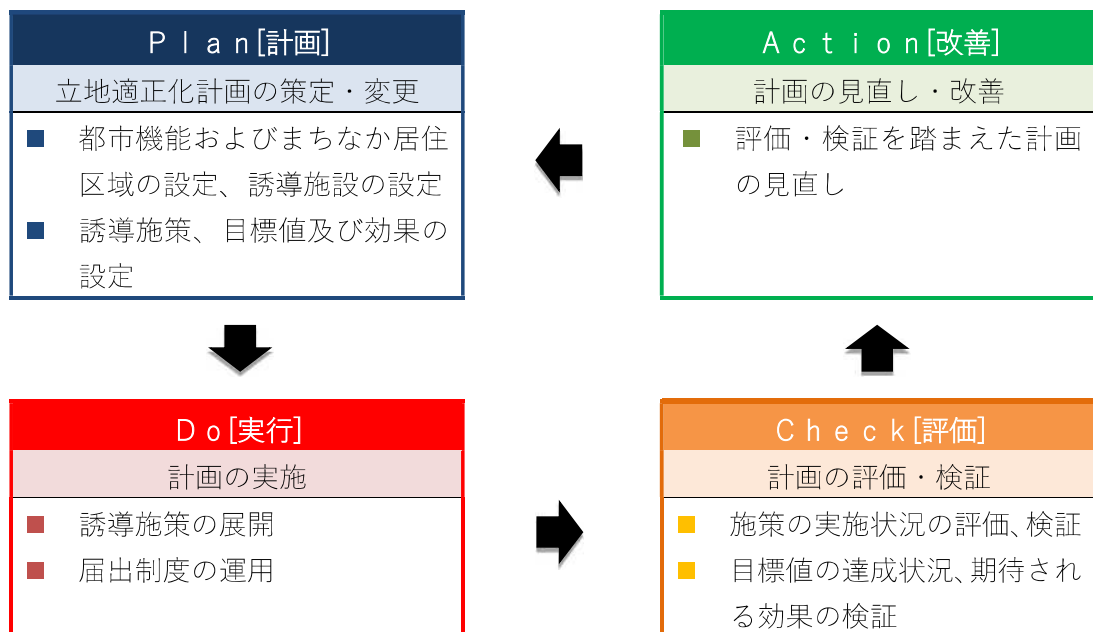
目標値	【評価指標】子育て世代（25－39歳女性）の就業率を向上		
	約65%（2015年）	➔	<u>約70%（2040年）</u>
	【評価指標】宿泊者数（観光交流人口）を向上		
	736,388人（2017）	➔	<u>約100万人（2040年）</u>

目標の達成により期待される効果	■ 女性の就業率が向上されることで、市内の新たな労働力を創出し、市内産業へ供給されます。
	■ 宿泊者数（観光交流人口）の増加に伴い、市内での消費額が増加し、サービス業等が活性化します。

7-2 施策の達成状況に関する評価方法

本計画は社会・経済情勢等の変化を確認しながら、PDCAサイクルの考え方に基づき、概ね5年ごとに、計画に記載した誘導施策の実施状況や目標値の達成状況について調査・分析を行います。

また、調査・分析した結果は、庁外の学識経験者や関係団体等で構成する評価等専門委員会（本計画公表後に設置予定）において、評価を行い、計画の進捗状況や妥当性等を検証しながら、必要に応じて適宜見直しを行うものとしします。





いわき駅前